

全酪連会報 1

2021 JAN No.664

新年の御挨拶

代表理事会長 砂金甚太郎
農林水産省生産局長 水田正和

酪農とのかけはし／江口和範さん

監査室だより／今求められる内部統制・内部監査(人)の役割とは

酪農業に対する理解醸成活動報告(前編)

日本酪農見て歩紀／(株)クリスタルフラワー(静岡県富士宮市)

酪農トピックス／「儲かる酪農とは？」JA北オホーツク「青年部講習会」開催(札幌)ほか

酪政連活動報告



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

新年の御挨拶

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

砂金 甚太郎



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和3年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて、昨年について振り返りますと、

もはや申し上げるまでもなく、新型コロナウイルス感染症への対応に追われた1年となりました。昨年の今頃にはまさかこのような事態に陥るとは想像もしませんでした。

一昨年の12月に中国の武漢で最初の感染者が確認されて以降、瞬く間に世界中に感染が広がり、多くの人命が奪われたばかりでなく、各国で入国制限や都市封

鎖、外出制限などの措置が取られたことにより、人とモノの動きが停滞し、世界経済に大きな打撃をもたらしました。

日本国内においても、緊急事態宣言や、インバウンド需要の消失、東京五輪延期による特需の先送り等により経済は著しく低迷しました。5月の緊急事態宣言の解除後、外需の持ち直しにより輸出は改善傾向にありますが、雇用環境の悪化、

消費活動の冷え込みは依然として深刻で、冬の到来により国内の感染者数の増加傾向が止まらないこともあり、引き続き困難な状況が続くことが予想されます。

かつてない速さでワクチンや治療薬の研究・治験が進められ、また治療法の改善が進むなど、わずかながら明るい兆しも見えているようですので、一日も早い収束を祈らずにはいません。

こうした中、国内の酪農に関しまして、小中学校の休校による学乳向け生乳のキャンセルや、緊急事態宣言による休業要請で飲食店等向けの業務用乳製品の需要が減少し、生乳需給が大幅に緩和するなど、大きな困難に見舞われました。この局面に対して、農林水産省をはじめ関係団体のご尽力により、幸いにも生乳廃棄に至ることなく乗り越えられたのは、感謝するところです。

コロナ禍の収束が見通せない中、今後

も予想もしないような影響がもたらされる可能性もあり、気の休まらない状況が続きます。

また、国内の酪農家戸数は減少に歯止めが掛からない状況が続いているほか、毎年のように深刻な自然災害が随所で発生しています。コロナ禍と併せ、予断を許さない酪農情勢が続いています。

このような状況下において、私も全酪連では、本年4月から今後3ヶ年の事業方針となる第十二次中期事業計画が始まります。

また平成23年に、我が国酪農生産基盤の維持・拡大を目指し「全酪連将来ビジョン」として、10年間の基本方針をとりまとめましたが、昨今の酪農を取り巻く情勢が当初の予想を超えて変化していることから、この第十二次中期事業計画の開始に合わせ、これまでの取組みを総括・検証した上で、一年前倒して将来ビジョンを見直すことといたしました。

今後、日本の酪農が直面する課題に対応しつつ、本会にできる行動を着実に積み重ねていくことを主眼に、①酪農経営環境の安定化、②酪農経営の持続力向上、③酪農生産物の販売強化、④組織運営の効率化と財務体質の充実、⑤ガバナンスの強化を基本施策として、新たな将来ビジョンも提示させていただきます。

このような将来ビジョン、中期計画を確立し、これを着実に遂行することにより、今後も引き続き、全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、酪農専門農協の全国連として日本の酪農の振興と発展に寄与していく所存であります。

最後になりますが、全国の酪農生産者・会員役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶

農林水産省生産局長

水田 正和



明けましておめでとうございます。
令和3年という新しい年を迎えるにあたり、一言、御挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、我々の生活は一変してしまいました。コロナ禍では、3密の回避やマスクの着用が当たり前になり、当省においてもリモートワークやWeb会議など新しい取組が始まりました。

酪農・乳業界においては、3月には感染拡大に伴う学校等の一斉休業による学校給食向け牛乳の供給停止、4月には緊急事態宣言に伴う外食の休業等により

業務用乳製品が大幅な需要減となったことに加え、4月下旬から6月上旬にかけては生乳生産量がピークを迎えることから、行き場を失う生乳の発生が危惧される深刻な状況にありました。

農林水産省としては、こうした事態を受け、学校給食用牛乳向けの生乳を長期保存可能なバター・脱脂粉乳向けに用途変更する取組への支援を、予備費を活用して緊急的に措置したほか、在庫が高水準となった脱脂粉乳を飼料用など需要がある分野で活用する取組への支援、保存の利くチーズ等の乳製品を積極的に製造する乳業メーカーへの支援、生産者団体が医療機関等へ牛乳等を無償配付する取

組への支援を措置するなど、需給調整に尽力する業界関係者の皆様と連携して取り組んでまいりました。

さらに、消費者の方々に向け、普段より牛乳をもう1杯、もう1本多く消費していただくことを推進する「プラスワンプロジェクト」を立ち上げ、当省職員が前面に立つて、YouTubeやSNSでのPRを行いました。こうした取組と指定団体やメーカーの皆様方の御尽力によって、生乳を廃棄することなく春先の需給緩和期を乗り切ることができました。
6月下旬以降は、夏の暑さによる生乳生産量の減少に加え、飲用需要の増加や夏休み期間の短縮により、一転して需給

はひつ迫傾向となりましたが、皆様方のお力添えを賜り、大きな混乱もなく供給を続けることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また、昨年は3月に新たな「酪農及び肉用牛の近代化を図るための基本方針」を策定しました。

我が国酪農は、高齢化や後継者不足による酪農家戸数の減少等に伴って、生乳生産量は減少傾向で推移してまいりましたが、令和元年度に4年ぶりに増加に転じ、引き続き増加傾向が続いています。

都府県においても、昨年4月以降は概ね前年を上回って推移していますが、夏の場の需要期における北海道から都府県への生乳移送も限界に達していることから、新たな酪肉近においては、都府県酪農の生産基盤強化と北海道酪農の持続的成長を最重要課題とし、令和12年度までに全国の生乳生産量780万tを目指すこととしています。

具体的には、加工原料乳生産者補給金

(ゲタ)や加工原料乳生産者経営安定対策事業(ナラシ)などの経営安定対策に加え、令和2年度第3次補正予算等により、引き続き、乳用後継牛への増頭奨励金の交付や畜産クラスター事業による畜舎整備、国産チーズの競争力強化対策等を措置し、酪農の生産基盤の強化を推進してまいります。

国際情勢に目を向けてみますと、昨年10月に日英EPAが合意に至りました。乳製品関係では、バター、脱脂粉乳、チーズ等の関税割当は新たな英国枠を設けず、日EU・EPAと同じ内容を維持しております。TPP11、日EU・EPA、日米貿易協定、そして今回の日英EPAと近年めまぐるしく変わる国際環境においても、引き続き、しっかりと国内生産を確保していけるよう我が国酪農・乳業の体質強化を進めてまいります。

他方、輸出については、政府全体で掲げる農林水産物・食品の輸出額目標5兆円(令和12年)の達成に向け、昨年11月

に策定された「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」において、牛乳乳製品を輸出重点品目の一つとして位置づけております。牛乳乳製品の輸出は堅調に推移し、令和元年には184億円と過去最高額を更新しておりますが、目標達成に向けては、より一層の取組が必要です。このため、農林水産省では、生産者・乳業メーカー・輸出事業者が連携した「コンソーシアム」を設立し、生産から輸出まで一貫した輸出促進を図る体制の構築を図り、コンソーシアムにおける輸出拡大の取組に対して支援を行うことにより、更なる輸出拡大を後押ししてまいります。

コロナ禍という非常事態を前に不安に思われている方々も大勢いらっしゃると思いますが、将来に希望を持つて経営を継続していただけるよう、農林水産省としても、引き続き酪農生産基盤の安定・強化に全力を尽くしてまいりますので、令和3年も畜産・酪農行政への御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。

酪農との かけはし



第29回 宮崎大学 住吉フィールド

ドリーム・チャレンジ・ えぐチーズ!!

宮崎大学農学部畜産草地科学科在学
江口 和範さん
(愛称:えぐチーズ)

お邪魔した住吉フィールドは、宮崎市北部に位置し、50haの敷地に約240頭の家畜を有する西日本最大級の宮崎大学附属牧場施設です。近隣には神話の里ならではの、日本最初の夫婦の神様イザナギノミコトとイザナミノミコトを祀る日本屈指のラブパワースポットである江田神社や世界のトッププロゴルファーが集うフェニックスカントリーがあります。

今回はチーズの世界にのめり込んだ江口和範さんにお話を伺いました。

えぐチーズのルーツ

現在、宮崎大学農学部畜産草地科学科4年生の江口和範さんことえぐチーズは、福岡県出身。

初めはチョット緊張と照れが混じりながら話してくれました。

「子供の頃から動物が好きで、祖母が野菜栽培や子牛繁殖などを生業にしていたので、動物と触れ合う機会も多くて自然と食の大切さを感じて育ちました。

段々、生産者や食に関わる仕事への尊敬と言うか有難いな、との思い

が強くなり動物や食に関係する職に就きたいと考えて、九州の畜産地帯にある宮崎大学農学部の門を叩きました。」

「大学では、開講されて間もない産業動物コンサルタント育成プログラム（ICEプロ）を受講しています。九州や北海道のチーズ工房などでインターン実習して、それぞれの異なるやり方や設備、味などを比較検証して発表する予定です。

加えて、オランダで1年間チーズ留学し本場のチーズ製造を学んで来ま



▲ 江口和範さん

江口 和範さんの チーズ留学時の1日のタイムスケジュール

●チーズ製造日

8:00 ▶	型の洗浄
11:30 ▶	チーズ作り
13:00 ▶	昼食
13:45 ▶	片付け、掃除
16:30 ▶	搾乳
19:30 ▶	作業終了、夕食

●チーズ製造日以外の日

8:00 ▶	ウオッシュ作業 (塩水で洗う)
9:30 ▶	プレス機の洗浄
10:30 ▶	
	コーティング
13:00 ▶	昼食
13:45 ▶	コーティング、 棚拭き
16:30 ▶	搾乳
19:30 ▶	作業終了、夕食



▲ Bloom-cheese made by えぐチーズ



▲ 作業風景



▲ 自家製モッツアレラ

チーズに魅せられて

えぐチーズが、チーズに興味を
した。牧場では搾乳や飼養管理、乳
加工などを一通り研修しています。」

もった経緯を教えてくださいました。
「大学入学してからです。高校時
代の海外研修がきっかけで異文化へ
の知的好奇心が高まり、大学生にな
ったら海外を見て回りたいと思

いを強くしました。」
「2年生になり何を軸にして何を習
得するために留学するのか悩んでい
た頃にチーズの講義を受けて興味を
持ちました。調べてみると世界には

チーズ留学

チーズの話になるにしたがい、え
ぐチーズの笑顔が増えていきます。

「オランダのチーズ工房では、1日
10時間とハードワークでしたが、好
きな事をやっているので苦にはなり
ませんでした。仕事の合間に日本
の食材を使ったオリジナルチーズを
作ったり、チーズツアーを企画開催
したり、イタリアやイギリス、デン
マークなどにも足を運び多様なチー



ズ文化を体験し、あつと言う間の1年間で貴重で充実した経験となりました。」

チーズ道に向かってワクワクが止まらない

筆者は、明確な夢や目標をもって進路を選ぶ若者は幸せだと思います。

えぐチーズは、夢をもってチーズ道へ向かって行くそうです。

「卒業後は北海道の興部町にあるチーズ工房にお世話になります。」

チーズ製造技術を習得し、最終的には九州に戻って工房を開きたいと思っています。」

「最近ではモンゴルやアフリカなどの国々でチーズがどのように生活に密着しているのか、欧州や日本のチーズ文化とどのような相違点があるのか見て回りたいんです。」

また、コロナ禍で行けてませんが、本当は九州のチーズ工房巡礼をしたと考えていました。」

全国のチーズ工房・酪農家の皆様、もし、えぐチーズがご訪問の際は是非とも温かく迎えてください。

酪農に望むこと

えぐチーズは、時間をかけて真摯に答えてくれました。

「朝から晩まで365日休みもなく生乳を生産していただいて、僕らが牛乳乳製品を食べられることに感謝しています。コロナ禍で生乳が余剰になると言う話も聞きました。飲用向けだけではなくてチーズなどの加工食品にどんどん向けられるような乳・チーズ文化が根付いて、現在のような状況にも対応できる様になれば良いと願っています。」

住吉フィールドの紹介

昭和5年に宮崎高等農林学校の附属住吉牧場として設置、昭和24年に宮崎大学農学部を設置とともに、大学附属牧場となりました。

住吉フィールド（牧場）では、未来の畜産、そして食と農の安全を担う人材の育成を目指しています。また、家畜の健康と福祉を考慮し、放牧を主体とする飼養管理をおこなっています。

平成22年に宮崎県で口蹄疫が発生、実際の経験に基づく最前線の防疫態勢・衛生管理を実施しながら、健康な家畜の生産に努めています。

粗飼料自給率100%の実績を生かして、飼料作物の作付けから収穫までの過程を実践的に学習することができます。また、一般的な規模で搾乳を行い、場内加工施設で大学独自ブランド「宮崎大学

Milk」の生産・販売を行っており、搾乳、飼養管理、繁殖管理ならびに高品質の牛乳を用いた乳加工実習を実践的に学習することもできます。

黒毛和種牛においても、大学独自ブランド「宮崎大学 Beef」の生産・販売を行っており、繁殖母牛の管理から人工授精、妊娠鑑定、分娩管理、出生子牛の育成、肥育牛管理、枝肉出荷など、牛の出生から出荷までを学習できます。

▼ 住吉フィールド俯瞰



▲ 独自ブランド「宮崎大学Milk」

全国の酪農家に



高齢化や労働力不足など苦勞も多い忙しいと思いますが、牛に癒されながらこれからも生乳生産をよろしくお願いします。

酪農家さんが毎日搾ってくれるからこそ、僕は大好きなチーズを作ることができます。

初乳粉末製品

GOODSTART

PREMIUM

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有

初乳が足りない時、イザという時の備えに、
グッドスタートプレミアムが皆さんのお役に立ちます。

○作業性は「3楽」

～溶かすも楽、給与も楽、片付け作業も楽々～

何かと余裕がなく、慌ただしい子牛の分娩。

溶解性に優れているグッドスタートプレミアムを使えばスムーズです。

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全卵粉末

飼料紹介サイトはこちら



牛用配合飼料

SOYCHLOR

ソイクロール

商標登録出願中

～ソイクロールで移行期を乗り切ろう～

ソイクロールの特長

エネルギーコントロールのしやすさ

乾乳期の過剰なエネルギー給与は、様々な周産期疾病の一因とされます。ソイクロールは、
クローズアップ期の代謝タンパクを充足させながらエネルギーのコントロールがしやすい飼料です。

分娩後の代謝を考えたミネラルバランス(DCAD)

ソイクロールはDCADを適正化させる塩素を強化しつつ、不足しがちなマグネシウムとカルシウム
も配合しました。乾乳期のDCADを整えることによって、分娩後の良いスタートを切りましょう。

給与量

●給与推奨量 クローズアップ期にて1頭当たり600g～1kg/日

※詳しくは飼料入タックラまで、

お問い合わせ先



全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765
釧路事務所 0154(52)1232
帯広事務所 0155(37)6051
道北事務所 01654(2)2368
根室駐在員事務所 01537(6)1877

仙台支所 022(221)5381
北東北事務所 019(688)7143
東京支所 03(5931)8011
北関東事務所 027(310)7676
栃木駐在員事務所 028(689)2871

名古屋支所 052(209)5611
大阪支所 06(6305)4196
中四国事務所 0868(54)7469
近畿事務所 0794(62)5441
三次事務所 0824(68)2133

福岡支所 092(431)8111
南九州事務所 0986(62)0006



今求められる

内部統制

内部監査(人)

の役割とは

日本の「内部統制」「内部監査」を巡る状況は、昨今、大きな変化を迎えています。そこで、今回は、この状況変化に伴う「内部統制」「内部監査(人)」の役割変化について報告します。会員の皆様におかれましては、内部統制の整備や内部監査業務に携わっている方もいらっしゃると思いますので、参考になれば幸いです。

1 「内部統制」の役割変化

① 従来の「内部統制」の主な役割

2006年成立の「金融商品取引法」に規定され、上場企業に義務付けられた内部統制の整備は、当初、財務諸表の信頼性確保にフォー

カスされていました。

このことから、多くの企業にとって内部統制の整備に対する役割認識は、「コーポレートガバナンス(企業統治)の強化という外部の要請に対応すること」が主となっていました。

このような状況下、企業にとって内部統制の整備は、「組織の効率性を阻害する後ろ向きの仕事」といった認識があったのも事実です。

② 現在の「内部統制」の主な役割

しかし現在は、内部統制や内部監査には、財務諸表作成の信頼性だけでなく、各業務そのものの有効性・効率性を評価する業務監査の視点が見られます。また、先進的な取り組みを行っている企業においては、経営課題に対するリスク・マネジメントの側面を中心に、内部監査人に社内コンサルタントのような役割が求められているケースも増えてきています。さらに、続発する企業の不祥事においても、内部統制や内部監査の不備が指摘されることがあっても、それらの不要論が出ることは、まずありません。これらのことから、内部統制は、わが国の企業において着実に定着し、その役割を広げつつあると言えます。

2 内部監査を担う人物像の変化

① 従来の内部監査を担う人物像

内部監査といえば、従来、組織内で経験が豊富なベテランに委ねられ、属人的な業務というイメージが強いものでした。

② 現在の内部監査を担う人物像

現在は、多くの企業において、企業経営に近い部門として、比較的若い人材に内部監査を経験させることが増えてきており、内部監査に関する標準化された専門知識を備えた人材が求められています。

では、内部監査を担う人物像の変化はなぜ生じたのでしょうか？

その理由の一つに、会社法等による要請もあって、企業経営上の内部統制やリスク・マネジメントの整備・運用がより重視されるようになったことがあります。内部

監査は内部統制やリスク・マネジメントの有効性評価および改善提案を行います。適切な評価・提案をするには、内部統制やリスク・マネジメントに関する体系的知識が必要です。経験に基づくだけでは、組織内で経験が豊富なベテランを当てればよかったです。しかし、真に適切な評価・改善を求めるとなると、年齢や性別に関わ



りなく、体系的知識を身につけている人材が必要不可欠となります。つまり、現在の内部監査は属人的な業務ではなく、専門的な業務となってきたのです。

3

「内部監査」の現状と今後求められる役割

①「内部監査」の現状

内部監査の本来の役割は、企業内部・外部にかかわらず、あらゆるリスクの低減と不祥事の防止、業務の有効性や効率性を高めることにあります。そのため、内部監査は、業務監査を中心に、日常の企業活動が組織として決定したルールどおりに運用されているか、企業に何らかのリスクをもたらす行為が行なわれていないかをチェックすることが主な業務となります。

しかし、現状、多くの企業における内部監査の位置づけは、制度上「やらなければいけない」という認識の下、必要最低限の投資をもって取り繕うケースが少なくないことは否めません。

また、多くの企業における内部監査において、内部監査に関する標準化された専門知識を備えた人材の不足から、監査の指摘事項が、形式的かつ重箱の隅をつつくような細かい内容であった面も否めません。

このような状況下において、多くの企業で内部監査が本来の役割を十分に果たしていると言えないのが現状であると推察されます。

②今後求められる「内部監査」の役割

多くの企業では、結局のところ、内部監査に特段の成果が期待されることも無く、制度上求められた仕組みを履行することを目的として実施されている感が強く、現在もそういった考え方がむしろ主流ですらあるかもしれません。

このような状況を変えていくには、専門知識を備えた人材が内部監査人となり、形式的ではなく本質的な業務改善をとまなう監査を継続実施することにより、組織内で成果（業務改善提案による経営上の効果等）をあげていかなければなりません。

この組織内での成果の積み重ね

を通じて、企業内部・外部にかかわらず、あらゆるリスクの低減と不祥事の防止、業務の有効性や効率性を高めるといふ、内部監査の本来の役割を達成することができるとは思います。

4

まとめ

前述のとおり、日本の「内部統制」「内部監査」を巡る状況は、昨今、大きな変化を迎え、その変化に伴い「内部統制」「内部監査（人）」の役割もそれぞれ日々変化し続けています。

このような状況下、内部統制の整備や内部監査業務に携わる人材には、積極的に体系的知識や新たな知識を吸収しようとする「意欲」が何より求められています。

その「意欲」が専門知識を備える人材の確保につながり、最終的には財務諸表作成の信頼性だけでなく、各業務そのものの有効性・効率性を評価するという内部統制や内部監査の本来の役割の実現にもつながるのではないのでしょうか。

酪農業に対する 理解醸成活動報告

前編



仙
台

今年も全国酪農青年女性会議は、酪農業に対する理解醸成活動を行っています。

コロナ禍で様々なイベントが縮小傾向にある中、主催者や訪問先のご理解、ご協力をいただきながら、三密を避けて活動を行いました。その活動内容を抜粋してご報告いたします。ご協力いただいた関係者に深く感謝し、お礼申し上げます。

●子ども食堂、児童館

岩手県盛岡市

開催日：10月12日(月)～13日(火)、15日(木)～16日(金)、
20日(火)、23日(金)

参加者：岩中酪農青年女性会議 13名



●げんき熊野市

山形県南陽市宮内

開催日：11月21日(土)

参加者：山形県酪農青年女性会議 他 3名



●宥小山牧場あいすむら マルシェ

(宥小山牧場あいすむら (宮城県栗原市一迫))

開催日：11月28日(土)

参加者：みやぎの酪農協青年部・婦人部 他 3名



●愛知県畜産フェスタ
愛知県畜産総合センター
(愛知県岡崎市)

開催日:10月24日(土)
参加者:愛知県酪農農業協同組合 他 11名



●小垣江東小こころの卒業式
小垣江東小学校
(愛知県刈谷市)

開催日:11月25日(水)
参加者:小垣江東小学校児童
他 7名

●中学校教育ファーム
新城市立作手中中学校(愛知県新城市)
開催日:10月23日(金)
参加者:愛知東 他 2名



●令和2年度 第2回男女共同参画学習会
幸田町民会館 あじさいホール(愛知県額田郡幸田町)
開催日:11月5日(木)
参加者:愛知県酪農青年女性部 他 2名



●らくれん食育教室
愛媛県下の小学校 7校
開催日:12月10日(木)~
1月28日(木)
参加者:愛媛県酪農経営者協議会
他 3名(1校当たり)



●産地直送プロジェクト
西諸県都市畜産販売連合会(宮崎県小林市)
開催日:11月14日(土)~15日(日)
参加者:JAこばやし酪農部会 他 6名



●産業まつり
えびの市文化センター(宮崎県えびの市)
開催日:11月14日(土)~15日(日)
参加者:JAえびの市酪農青年女性部
他 4名

見て歩紀

No. 331

(株)クリスタルフラワー
静岡県富士宮市

牛と共に歩む春秋 牛で繋がる人との和

地域の紹介

誰もが知る世界文化遺産の富士山。その富士山を市の北部に有する静岡県富士宮市。富士宮市は富士山のみならず「浅間大社」や日本の滝百選へ選出された「白糸の滝」、「人穴富士講遺跡」など富士



▲ 丸山満幸氏

◀ 名物 富士宮焼きそば



▲ 牧場から富士山が見えます

山に由来する文化遺産を数多く有しています。また、富士山麓の標高700～1,000mには富士箱根伊豆国立公園に指定されている「朝霧高原」が広がっています。朝霧高原では、冷涼な気候を活かして酪農業も盛んです。そんな富士宮市で牧場を営まれる株式会社クリスタルフラワー（以下、クリスタルフラワー牧場）の創業者、丸山満幸さんにお話を伺いました。



▲ 社長の由起子さん 愛牛とのツーショット





牧場の歴史

満幸さんと酪農の出会いは、満幸さんのおじいさんの代から酪農をされてきたことから始まります。紆



▲ 牛舎内部 TMRが基本です



▲ 牛舎内部 清潔に保たれています



▲ 牛舎内部

余曲折あり、酪農家を志した満幸さんは、今から45年程前に酪農を始めました。満幸さんが就農した当時は搾乳牛が10頭ほどでありましたが、満幸さんが牧場を継ぎ、牛舎を増棟して40頭規模の牧場になりました。2000年にはパーラー、フリーバーンを導入、さらに牛舎を増棟して100頭規模の牧場まで育てました。…と、ここまででは別の牧場のお話。この牧場は満幸さんの次女が継いでいます。今回の主役、クリスタルフラワー牧場は、満幸さんが、売りに出ていた土地を購入したことから始まります。実は、この土地の購入の際、奥様に相談せずに購入してしまい、すぐ怒られてしまっ



▲ 水槽の水も新鮮です

▼ ロボット搾乳



▲ ロボット搾乳
4基設置されています

▼ 10tバルクが設置されています



▲ 自動哺乳機を導入しています
勿論ミルクはカーフトップEXブラック

たそうで…。さらに購入した牧場は3年前にパーラーが導入されたばかりで、パーラーは綺麗なものの、連動スタンションや換気扇、バルククーラーの冷凍機などは撤去されていたので、そこから揃えなければならぬという大変な幕開けでした。しかしこの出来事が無けれ

ば、現牧主（満幸さんの長女）、由起子さんは酪農家になることはなかったかもしれません。というのも、もともと由起子さんは農協に就職しており、丸山第2牧場（現在のクリスタルフラワー牧場）ができたことがきっかけで牧場に入るることになったのです。その後、今から7年前に搾乳牛120頭規模でクリスタルフラワー牧場を継ぐこととなります。こうしてクリスタルフラワーは現在、400頭規模の牧場となりました。

ところで、クリスタルフラワー牧場という素敵なお名前ですが、どこからきたのでしょうか。伺ったところ、丸山第2牧場（現…クリスタルフラワー牧場）が始まって初めての中部日本共進会で優秀賞を取った2頭の牛が「クリスタル」「フラワー」という名前でした。特別な牛



▲ 搾乳牛舎

ということなのでこの2頭から牧場の名前をもらったそうです。

◀ クリスタル
牧場名に由来する2頭です

▼ フラワー



◀ お気に入りの
愛牛 アリス



牧場の概況

クリスタルフラワー牧場は牧主、由起子さん、お父様である満幸さん、満幸さんの奥様であるふじ子さん、従業員4名で日々お仕事をされています。搾乳牛は300頭ほどで、預託牛などを含めて全体で



▲ 堆肥舎 戻し堆肥として利用しています



▲ 堆肥舎

400頭の牛がいます。1日8・5tの乳量で、暑さが落ち着いてきてからは乳量が1日1頭あたり平均で+1・2kgアップ。自動搾乳ロボットが4台、パーラーは6頭ダブルで搾乳を行っています。自動給餌機やエサ寄せも機械を導入さ

れています。糞出しもバンスクレーパーを使用しており、ベッドは毎日ロータリーをかけることで攪拌し、1週間〜10日に1度、堆肥舎へ運んでいます。15町もの混播草地も持ち、イタリアンライグラス、オーチャードグラス、チモシー、クローバー、リードカナリィグラスを育てています。これらの牧草は子牛や育成牛に給与しています。

牧場の特徴

今回、取材の中で牧場の中を見学させていただきました。牛舎に入ってまず目につく大きな特徴は「キャットウォーク」があることです。ここに上ると、ロボット搾乳の牛群を一望できます。「視察者が来た時に、飼槽に足を踏み入れられたくないからね。」と、お話しされていました。また、コンポストバーンを採用しているため飼槽通路からは牛が良く見えないため、牛の様子をよく観察できるようにと、何とも牛のことを考えて設置されたようです。

また、哺乳ロボットの子牛には富士山の磁場の関係でセンサーが誤作動を起こすためタックが付いて



▲ キャットウォーク 上から全体が見渡せます



▲ キャットウォーク

いません。哺乳量を測れないことが難点ですが、目立って小さい子牛はいませんでした。時間を決めずに飲みたいだけ飲めるので喧嘩も少なくなるのか、弱そうな子牛も見受けられませんでした。「子牛は初乳か



▲ 子牛ペン



▲ 元気いっぱい！

ら飲みたいだけ飲ませた方が良いでしょう」と満幸さん。昔は一斗缶に乳首をつけて飲ませていたそうです。冬場はミルクが冷えてしましますが、震えながらもごくごく飲み、下痢も起こらないとのこと。カーフハッチの中で亡くなった子牛もほとんどおらず、病気も下痢も少な

いです。栄養の充足がうかがえます。ハッチの中では哺乳ボトルで哺乳をされていますが、ここで哺乳口ボットへ移動させるための工夫が一つ。ボトルの乳首の先を切って広げてしまわないことです。乳首の先を広げると、少しの吸う力でたくさんの量が飲め、作業効率が上がりますが、吸う力が弱くても飲めてしまうために哺乳口ボットに入れると、飲む力が弱く、うまく飲むことが出来ません。クリスタルフラワー牧場では、哺乳口ボットに入れることまで考えてハッチの中の子牛を飼養されています。

堆肥の管理も丁寧にされています。サラサラでにおいも全くありません。牧場自慢をお聞きますと、飛節の腫れた牛が1頭もないことだそうです。「コンポストバーンをやったことによるものかな？」と満幸さん自身、何が良かったのか確信が持てないようでしたが（笑）。乳汁から発情や疾病の予兆を読み解くハードナビゲーターを導入しており、産後のケトosisなどもいち早く察知することができ、簡単な治療で済むことも、自慢の一つだそうです。

飼料への向き合い方

クリスタルフラワー牧場では飽食状態のため牛が自然と大きくなるそうです（中には170cmを超える牛も）。コンプリートを35kg、さらにロボットで配合飼料を平均3kgを給与しています。チモシー乾草も1日1頭あたり300g給与しているそうです。満幸さんの飼料への向き合い方は「全頭一本で行けるのがコンプリートの良さだが、牛は生年月日、年齢、体重、大きさ、分娩、乳量もすべて違う。同じ牛は1頭もない。それなのに1つのエサで全てをまかなうことに疑問を抱いている。コンプリートばかりだと太ってしまうが、加えて乾草を与えると



▲ TMRストッカー

牛自身で調整してくれる。おかげで乳量や受胎率も良くなった。ただし乾草が多いと栄養価が下がって乳質が落ちてしまう。バランスが大事。」と話してくださいました。

牛と向き合う

満幸さんは酪農に触れた当初から改良に力を入れています。「搾るだけじゃ面白くない。日本の牛が戦後良くなったのは検定事業や共進会があつて、その中でいい物ができてきたから。改良というのは今後酪農の発展のために必要な取り組みだと思う。」とお話されています。現在は乳房の形がロボットに向く牛の改良に取り組んでいるとのこと。



▲ サイレージ

クリスタルフラワー牧場は先述の通り、牛の事故が少ないです。これも牧場の皆様の力があってこそ。コンピュータ上の管理と、さらに満幸さんは暇があれば、作業をしながら牛を眺めているそうです。「牛の異常に気付くには牛をよく見る」と満幸さんは話してくださいました。牧場内にいるときはメモとペンを常に持ち歩き、キャットウォークの上から、機械の上から、歩きながら、どんな時でも牛を見て異常があればメモを取ります。そして牧主である由起子さんと情報を共有します。これが満幸さん流の牛との関わり方であり、牛の事故を未然に防ぐ有効打なのです。

酪農を通じて人と出会う

満幸さんに酪農家人生で一番の思い出を伺うと、それは人との出会いでした。高校進学の際、お父様から工業高校を勧められていた満幸さん。ずっと動物が好きだったこともありその薦めを断って内緒で農業高校へ進学しました。そこで出会った先生が畜産に熱心な先生でした。卒業の際、学校から牛を1頭譲ってもらい飼うことにしました。卒業後は



▲教育ファームも行っています
見学に来た児童からの手紙です

獣医さんの家に入って勉強。自然と獣医学の知識も身についたそうです。その後、公務員として働くことになりましたが、こんなことよりも動物に関わることをしたい、やりたいことをやりたいと酪農家の道を歩むことになりました。この高校の先生と獣医さんとお話したことが、酪農家人生の基盤になったとお話してくださいました。特に獣医さんとは就農後も繋がりがあったそうです。今は獣医業、牧場共にやめてしまわれたそうですが、現役時代、夜に「ルーサンの刈り取りを手伝って」と要請があり、静岡県から北海道へ刈り取りの手伝いに昭和新山のそばまで一番

機に乗って向かい、翌日最終便までに梱包・運搬までお手伝い、なんてこともあったそうです。

現在、満幸さんは静岡県のホルスタイン協会の会長をされています。年に数回東京中野サンプラザの会合で全国の会長からいろんな話を聞くことができるのが楽しいそうです。同志会にも入り、牛をショーへ出したり、牛仲間とお酒を嗜みながら酪農についての情報を交換したりと、全国の酪農家さんとの繋がりを持てるのが楽しいと話してくださいました。こうした繋がりのおかげで名牛を斡旋してもらえることがあるというのはここだけのお話し（世界一の名牛血統の一族を斡旋してもらったことも）。管理の良さも相まって、この系統牛で2020年ベストアダール賞を受賞されました

また、毎年小学生へ牧場体験を実施するなど、地域の方々とのつながりも大切にされています。

今後の目標

今後の目標を伺うと「搾乳ロボットも入れているため、年間乳量を1頭あたり12,000kg以上まで搾り、性

判別精液を利用して、今よりもレベルアップしていきたい」との意気込みを頂きました。



▲取材当日、割蹄作業が入っていました
事故を起こさないために、こまめに割蹄を行っているとの事です

終わりに

牛のことを考えた牛舎設計や、1日の行動など、終始、牛たちへの愛を感じられる時間と空間でした。牛舎を見学させて頂いた際の牛を見る満幸さんの愛おしさな目が印象的でした。今回お忙しい中、取材に応じてくださり、また、牛舎内の案内もしていただき誠にありがとうございました。今後もクリスタルフラワー牧場の発展を祈念しております。

名古屋支所 角木千裕

札幌
支所発「儲かる酪農とは？」JA北オホーツク
「青年部講習会」開催

11月18日(水)に北オホーツク農業協同組合（吉田隆好代表理事組合長）青年部（河原靖幸部長）による令和2年度青年部講習会が行われました。

今年度は、全酪連企画管理部総合企画室長の丹戸講師による「酪農業の経営におけるポイントと労働生産性の向上について」をテーマに、①経営移譲から間もない生産者②酪農経営の継承を視野に入れている生産者を対象に実施しました。

2部構成の講習のうち、1部では「どうして、オランダ酪農の労働投入量は日本の1/4なのか？」と題して、組合員アンケート結果を基に生産者が考え

る課題について検証しながら、オランダ酪農と日本の酪農の比較という方法で労働生産性や労働効率、また労働者不足に対するヒントや投げかけを行いました。2部では「儲かる酪農とは」と題した講習で、“儲かる酪農経営”の定義や有利な資金計画など、農場の仕組みづくりに直結する内容となりました。

当日は管内から15名の若手後継者が参加し、熱心に受講しました。終了後「オランダ酪農の話でこういう方法もあるのかと参考になった」という意見や「経営について改めてチェックしていきたい」といった声があがり、充実した講習会となったことが伺えました。（T.Y）

東京
支所発

伊那酪農業協同組合青年部で「実践型勉強会」の開催

令和2年11月30日(月)、伊那酪農業協同組合青年部定例会が開催されました。

その中で、有賀靖浩総務課長が講師となり、牛の繫留・保定・コントロールに必要な技術として、もくしを一から作ってみる、簡易頭絡の組み方の実践型勉強会を行いました。ロープ1本からのもくしの製作に、『どれに絡ませればいい？』『ここに通すの？』『こ

れはこうじゃない？』と参加者同士で助け合いながら進めました。作り上げられた人、惜しかった人、といいましたが、全員が夢中になり気付けば22時前に。8月の焼肉懇親会以来の青年部の集まりということもありましたが、日常に活かせる技術の習得と懇親を深めることができたひとときとなりました。（N.T）



名古屋
支所発石川県牛乳普及協会主催
「牛乳への理解を深めよう!」

10月17日(土)～18日(日)石川県主催による「第42回石川の農林漁業まつり」が開催されました。

会場には数多くの農林漁業に関する多くのブースが立ち並びました。畜産物フェアの会場内において、そのうちのひとつとして石川県牛乳普及協会（会長 高来直人氏）主催によるブースも開催されました。

畜産物フェアのブースには石川県酪農協を始めとして多くの関係者が参加して「地元石川県産の牛乳」をPRするとともに、牛乳の大切さなど啓蒙・啓発活動を行いました。

例年であれば『搾乳体験コーナー』、『牛乳試飲コーナー』、『牛乳料理試食コーナー』など行われるのですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策が取られる中、多くの一般来場者へ対し、展示パネル等で県内酪農情勢を説明することで、牛乳及び酪農業について理解を深めてもらいました。

会場に訪れたお客さんが少しでも牛乳の素晴らしさを分かって頂けたらと思い、参加したスタッフ全員、啓蒙活動に取り組み無事【第42回石川の農林漁業まつり・畜産物フェア】は終了しました。（T.K）



▲ 第42回 石川の農林漁業まつり
会場 石川県産業展示館 4号館



▲ 石川県牛乳普及協会 展示ブース



▲▶ ツール配布風景



名古屋
支所発

岐阜SP(有)西正物流 委託倉庫)竣工式

11月28日(土)岐阜SP(有)西正物流 委託倉庫)竣工式が開催されました。

竣工式には、岐阜県酪農農業協同組合連合会、美濃酪農農業協同組合連合会、有限会社西正物流 西川社長とそのご家族、岐阜SPの建設関係者の方々が参加されました。

竣工式では、神主によりひと通りの神事が行われました。式の最後に西川社長よりご挨拶があり、無事に

倉庫が完成したことへの感謝の御言葉を頂きました。

完成した倉庫はしっかりとした佇まいであり、生産者の皆様に製品の供給を安心して行うことができることでしょう。

委託倉庫が無事に完成したことに感謝するとともに、岐阜SPが今後の酪農業界の物流の拠点の一つとなり、酪農関係者のさらなる発展に役立つ様運用してまいります。(F.S)



▲ 竣工式開催



▲ 完成した倉庫



▲ 有限会社西正物流

全酪連名古屋支所は新たな拠点として岐阜SPを中心に近隣の畜産生産者へ購買製品の供給を始め、今まで以上に様々な形でお手伝いをしてまいります。これからも酪農畜産業界へ寄与してまいります。

名古屋
支所発JAひがしみの
「第1回スマート農業展示会」開催される

12月4日(金)に、岐阜県中津川市JAひがしみの本店で「スマート農業展示会」が開催されました。「スマート農業」とは、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のことです。

今年が初開催となる本展示会には、「スマート農業」を後押しする多くの企業が出展しており、リモコン草刈り機や薬剤散布を行うドローン、生産者の身体を補

助するアシストスーツなど次世代の農業を担う様々な機器が展示されました。

全酪連名古屋支所は、株式会社ファームノートと共同出展を行い、発情・疾病兆候検知センサーの「Farmnote Color」を紹介しました。

「おいしいお米コンテスト」や「リモコン草刈り機体験会」、「アシストスーツ試着会」などイベントも開催され、大盛況のうちに幕を閉じました。（T.C）



▲ 皆で試着！



▲ スマート農業展示会開催



▲ 株式会社ファームノート招聘



▲ アシストスーツ試着会

名古屋
支所発

「三重県酪農農業協同組合（仮称）創立総会」開催

令和2年12月10日（休）午後1時30分より三重県総合文化センター文化会館棟1階レセプションルーム（三重県津市）において「三重県酪農農業協同組合（仮称）創立総会」が開催されました。

厳しい酪農情勢の折、三重県下全酪農家が加入する将来に亘り希望が持てる、新たな酪農専門農協を設立することが、三重県の酪農家にとってより安定的な経営の継続と酪農組織の維持・強化につながります。

そこで、三重県下全域を事業区域とする「三重県酪農農業協同組合（仮称）」の令和3年4月1日事業開始に向けて、農業協同組合法第58条に基づき創立総会が開催されました。

本来であればこの新しい門出に県内外から多くの来賓関係者を招き創立総会を開催する予定でしたが、このコロナ禍の状況下、最大限の安全面を配慮して出席者は発起人会長 近藤 貞和氏（三重県酪連会長）を始め県内の関係者のみとなりました。

創立総会でのすべての議案は可決され無事、終了しました。

なお、大内山酪農は生乳受託以外の事業（指導、診療、購買、乳業）を継続し存続します。

全酪連はこの新しい組合の発足に心よりお慶びを申し上げますとともにこれからの益々の発展に寄与して参ります。
(T.K)



▲ 発起人 近藤会長挨拶



▲ 発起人 谷川原副会長挨拶



▲ 創立総会 風景

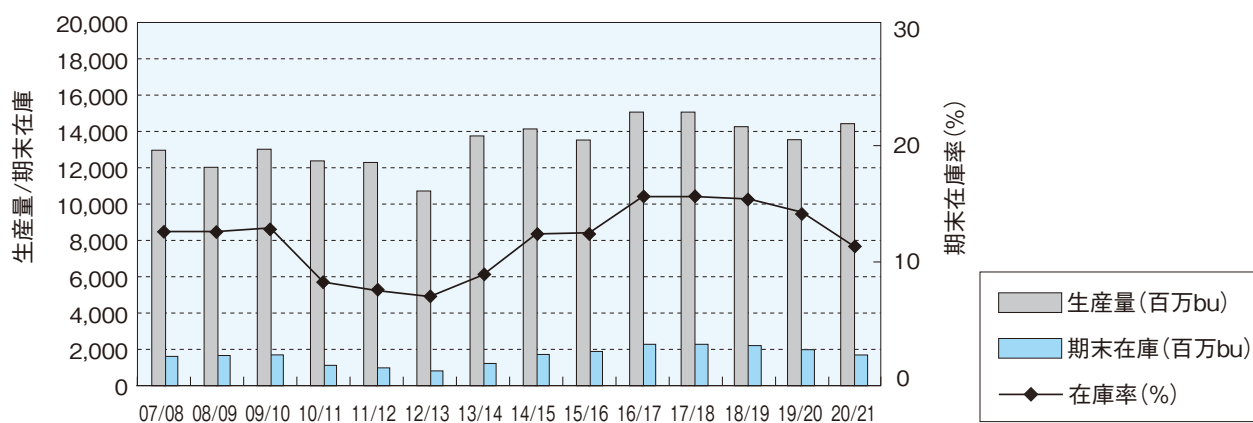


▲ 創立総会 受付風景

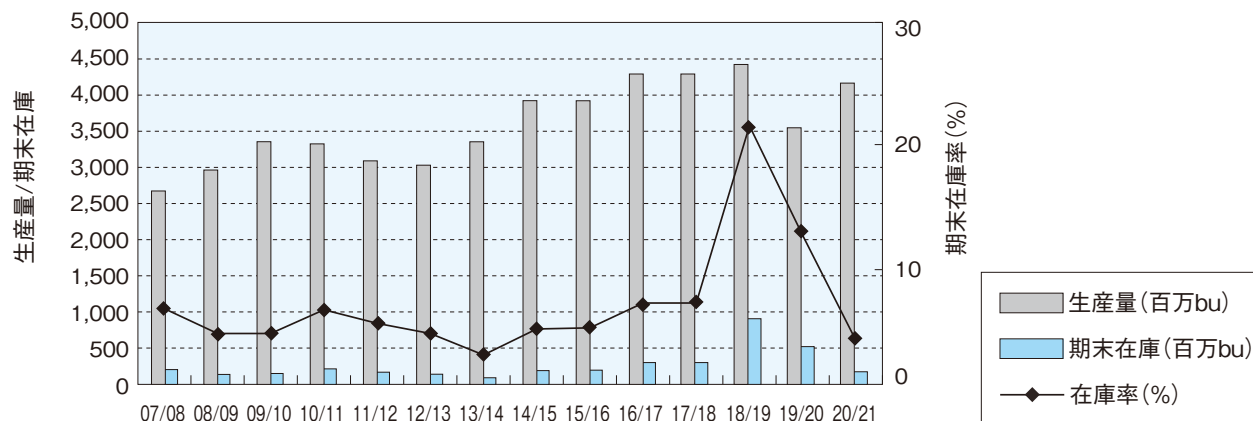


		19/20年産	20/21年産
12月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	89.7	91.0
	単 収(ブッシェル/エーカー)	167.5	175.8
	生 産 量(ブッシェル)	136億2,000万	145億700万
	需 要 量(ブッシェル)	138億8,700万	148億2,500万
	期末在庫(ブッシェル)	19億9,500万	17億200万
	在 庫 率	14.4%	11.5%
トウモロコシ 相場動向	中国を中心とした世界的な輸出需要の増加により期末在庫が減少していることからシカゴ相場は堅調に推移している。引き続き旺盛な中国の飼料需要や南米での乾燥懸念もあることから今後は底堅く推移する見込み。		
大豆粕相場動向	中国の需要は引き続き旺盛で、中国向け輸出成約を背景にシカゴ相場も堅調に推移しているが、ブラジル産の作付状況を見ながら相場の上昇に一段感が出てきた。国産大豆粕は搾油量が引き続き低調なことから、原料輸入大豆高に伴い強気の相場展開となっている。		
糟糖類	【一般フスマ】 逼迫傾向は続いているものの、配合割合調整と輸入ふすまの使用により需給は安定しつつあるものの、年末に向けた供給は非常に逼迫している。		
	【グルテンフィード】 国産はスターチメーカーは12月の早期に定修に入ると見られており、年末は非常に逼迫する見込みである。不足分は中国産の輸入で賄っているものの、現地価格高により価格競争力は無い状況にある。		
海上運賃	中国向け鉄鉱石需要が落ち着いたこと、中国の環境規制の観点から豪州産石炭の輸入を止めたことで海上運賃は軟調に推移していたが、豪州炭を規制する代わりにインドネシア炭の輸入を開始したことや穀物需要が旺盛で船が活発になっている要因から、反発し漸増している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和2年 12月

北米コンテナ船情勢	アジア諸国から北米向けの貨物量は依然として高水準で推移しており、海上運賃も歴史的な高値が続いています。このため各船社アジア向けに空コンテナを手配する動きは顕著です。実際に北米発アジア向け本船においては、輸出貨物向けの船腹を減少させ、その分空コンテナ回漕に割り当てを増加させ本船を運航する動きも出ています。この影響で以前に比べ北米発輸出向けの船腹予約の取得が難しくなっています。また北米においては輸入貨物が増加していることから、窓口である各港ターミナルにおいて混雑が生じています。特に米国の貿易要であるロサンゼルス港、ロングビーチ港の混雑状況は深刻です。これは増加する輸入貨物量に対してターミナルの荷役作業員及び、コンテナの保管スペースが不足しており、貨物の輸入量が各ターミナルの収容許容量を超え始めているためです。この結果、通常以上に本船荷役に時間を要しており予定通りのスケジュールに寄港できずに沖合で滞船する本船が増加しており、本船スケジュールに遅延が出ています。輸出用本船の船腹も空コンテナの回漕で逼迫していることから、船社によっては12月に北米発日本向けの輸出貨物に対するGRI（海上運賃一斉値上げ）を実施しており、輸入乾牧草のコストを押し上げています。
ビートパルプ	【米国産】 20年産のビートの収穫は終了しています。秋口から乾燥した天候が続いたため、糖度の含有量はここ数年で最も高い値となっています。一方、各産地の生産量は早魃と褐斑病の影響で当初予測されていた数字には届かないものの、前年を上回る見込みとなっています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは、20年産の1番刈は収穫期における断続的な降雨の影響で、多くの雨当たりの被害を受け良品の発生は限定的でした。2番刈、3番刈は一転し好天に恵まれたため色目の仕上がりは綺麗なものとなっています。一方品質面は収穫時期に気温が高く、ベリング時に夜露が十分に発生しなかったため、ドライな仕上がりの品質が多く発生しています。4番刈は、西海岸の広域で発生した山火事の影響で、太陽光を煙で遮られたため、通常以上に乾燥に時間を要したため、ブリーチが多く混入した品質となりました。
	【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズ、および同州中部クリスマスバレーでは、一部で雨当たりの被害が発生したものの1番刈から3番刈まで例年並みに上級品が発生しています。産地相場は西海岸において高成分な上級品の発生が少なかったこともあり、輸出業者と内需による旺盛な引き合いから、高値で推移しています。
	【カリフォルニア産】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、一部の圃場で収穫を残し20年産の収穫をほぼ終えています。産地では気温が低下していることから、一部で高成分品も発生しています。
チモシー	【米国産】 20年産の1番刈は主産地であるワシントン州コロンビアベースンとキティタスバレーで収穫期の天候不良により、上級品の発生は限定的となりました。20年産は作付面積が減少しましたが、19年産からの上級品の繰越し在庫もなかったことから、上級品の価格は高騰しています。20年産は上級品と中級品以下の価格差が例年よりも大きくなっています。
	【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジでは20年産の収穫を終えています。20年産の1番刈の作況は地域によって異なり、アルバータ州南部レスブリッジでは、雨当たり被害は少なく上級品が発生したものの、茶葉の混入が多く、大半は中級品となりました。同州中部のクレモナでは70%で降雨被害を避けることができたため、良品の発生が期待されていましたが、茶葉の混入が多く中級品以下の発生がほとんどとなりました。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは20年産の収穫が終了しています。豪州産オーツヘイの不作を受け日本からの引き合いは強くなっていますが、20年産は上級品の発生が少なかったことや、低級品においても、産地の干ばつの影響で自給飼料が不足している肥育牛生産者からの引き合いが旺盛なため、現在追加で買付できるものは限定的となっています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 20年産1番刈は収穫前の多雨で雑草混入が多く発生したため輸出向けに出荷可能な品質の発生は限定的となりました。生産者によってはシーズンを通し6番刈まで収穫できており、全体としては多くの良品が発生した年となりました。高温多湿な天候が続いた夏場から秋口以降に収穫されたものの一部で、茎が固く、湿度により発生したブリーチが混じった低級品が発生しましたが、これらは韓国を中心に出荷されています。
ストロー類	20年産は収穫期の天候に恵まれたため、不作であった19年産とは一転しペレニアル種、アニュアル種のライグラスストロー、フェスクーストローともに良品が発生しています。一方で各輸出業者、19年産からの繰越し在庫がなかったため、在庫を補填するために旺盛な買い付けが行われており、産地相場は堅調です。
オーツヘイ／ウィートストロー	【西豪州産】 20年産の西豪州は例年より1～2週間早い9月中旬から収穫が開始されました。収穫期の天候に恵まれ、上級品と中級品の発生が中心となっています。見た目もきれいな緑目で茶葉も少ない印象です。
	【南豪州産】 生育期において適度に降雨があり、十分な土壌水分を含んだなか生育したため、収穫前までは豊作が期待されていましたが、しかしながら収穫時に断続的な降雨に見舞われたため、雨当たり品が多く発生しています。南豪州での20年産は上級品、中級品の発生は非常に限定的となっています。
	【東豪州産】 南豪州と同様、産地は収穫期に断続的な降雨に見舞われたため、多くの雨当たり品が発生しています。一部雨当たり被害を逃れることができたオーツヘイも収穫できましたが、それらは天候の回復を待ったため、適期に収穫ができず刈遅れ気味で分析値は低い傾向にあります。東豪州産の20年産は上級品、中級品の発生が非常に限定的で低級品が中心となっています。
豪州コンテナ船情勢	豪州でも北米同様、コンテナ本船スケジュールに大幅な遅延が生じています。この遅延の要因は2つあり、1つ目は豪州港湾ターミナル大手パトリック社と東豪州港湾労働者組合の間で引き続き行われている労使交渉です。2つ目は北米同様、中国への空コンテナ回漕が輸出貨物の船積みよりも優先され行われていることです。労使交渉は12月1日の最終合意を目指していましたが、依然最終合意には至らず、現在も協議は続いています。以前のように港湾労働者側による作業停止や荷役の遅延行為はなくなりましたが、東豪州の港ではこれまで蓄積した貨物による混雑が解消できていないため、荷役作業が捗らず本船は当初予定していたスケジュールよりも大幅に遅れ出港しています。また前述の通り、アジア、北米間の運賃が好調であり、空コンテナがアジアで不足しているため、豪州にある空コンテナも同様、豪州発の輸出貨物より優先し中国に回漕されています。一部の船社では豪州発日本及び台湾向けなどの輸出向けの船腹予約の受付を一時的に停止することを発表しています。豪州も船のスケジュールが混乱しているため、今後も注視が必要です。

酪政連活動報告

令和2年11月～12月

日本酪農
政治連盟

11/18

中央委員会(参議院議員会館)

令和2年度畜産物価格及び関連対策に関する要請内容等について協議。

委員会終了後、衆議院・参議院議員会館を訪問し要請活動を行う。

12/2

自由民主党 畜産・酪農対策委員会が開催され、

佐藤委員長から、令和3年度畜産物価格及び関連対策について要請を行う。



▲ 自民党 畜産・酪農対策委員会にて要請を行う佐藤委員長

12/9

自民党 農林・食料戦略調査会等合同会議が開催され、

令和3年度畜産物価格等の決定報告がなされる。

報告後、佐藤委員長からお礼の挨拶を述べる。

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	45~55	▲	札幌管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で98.3%、累計で101.1%、苫小牧管内月計で98.2%、累計で100.9%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月~4月上旬分娩が中心となります。12月の同地域の乳牛市場は都府県の購買も多く、やや強含みの相場展開をみせました。1月は春分娩の牛も上場し始めるため、やや強含みの相場になると予想されます。資源状況としましては、F1腹・雌雄選別腹ともに十分に確保できるものと思われます。出回り頭数が少ない地域ではありますが、優良牛や高能力牛の多い地域でもありますので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	68~78	▼	
	経産牛	42~52	▼	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	42~47	▼	根釧管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で100.5%、累計で101.0%、中標津管内月計で100.4%、累計で102.0%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月~4月上旬分娩が中心となります。12月の同地域の乳牛市場が、根室・釧路ともに前回より値を上げる相場展開となりましたので、春分娩となってくる1月の庭先購買価格も同様の動きとなるものと思われます。腹別では、雌雄選別腹の引き合いが特に強い状況でしたが、F1腹・和牛授精卵移植腹も同様に強含みとなってきています。初妊牛の動きに合わせ、2~3産目となる経産牛も堅調な動きとなっています。
	初妊牛	70~80	▼	
	経産牛	42~52	▼	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	45~55	▲	帯広管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.4%、累計で103.4%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月~4月上旬分娩が中心となります。12月の同地域の乳牛市場は、道内外ともに初妊牛需要が旺盛となってきており、相場は強含みで推移しました。特に和牛授精卵移植腹が高騰し、100万円以上の落札が多数見られ、庭先購買価格についても同様の動きとなるものと思われます。資源状況としましては、ここ数年の雌雄選別精液の普及の影響もあり、搾乳素牛資源は増加傾向にありますが、1月~3月の購買につきましては例年通り、春分娩の需要が見込まれるため、相場はやや強含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	70~80	▼	
	経産牛	42~52	▼	
道北管内	育成牛(10-12月令)	40~50	▼	道北管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.2%、累計で100.4%、北見管内では月計で105.2%、累計で104.5%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月分娩が中心となります。資源頭数は例年並みと思われますが、道内の規模拡大農家の大型導入が増えているとともに、春分娩の需要が重なり、初妊牛相場はやや強含みで推移すると思われます。道内外のメガ・ギガファームの導入状況次第でさらに価格が動く可能性もあります。経産牛も初妊牛相場に連動した展開が予想されます。育成牛については、春分娩可能な月齢となるため、価格はやや強含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	68~80	▼	
	経産牛	40~50	▼	
道内総括	育成牛(10-12月令)	43~52	▲	道内の12月中旬までの生乳生産量前年比は102.1%、累計で102.4%の実績となっております。本格的な冬の到来を迎えておりますが、道内の一部地域では豪雪となり道東方面は積雪が少ない状況となっております。3月~4月の春分娩が中心となる1月の初妊牛動向についてですが、例年通り春分娩を求める購買者が多くなることが見込まれ、相場は育成牛、経産牛を含め堅調に推移するものと予想されます。その中でも道内外とも和牛授精卵移植腹の需要が旺盛になってきており、相場を引っ張る傾向にあります。資源については、例年並み以上の頭数は確保できる見込みであります。今後とも相場動向に注視しながら、庭先選番購買による優良な搾乳素牛を供給して参りますので、購買計画がございましたらお早目に弊会担当者までご連絡いただきますよう宜しくお願い致します。
	初妊牛	70~80	▼	
	経産牛	42~52	▼	

今月の表紙

今月の表紙は
北海道 池田辰実氏
撮影です。



編集後記

- 新年あけましておめでとうございます。
皆様には、晴れやかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。
2021年、丑年！
新型コロナ禍がまだ終息せず、厳しい状況は続いています。酪農業界が輝かしい1年を過ごせることを祈願すると共に、皆様に喜んでいただける内容で全酪連会報をお届けできるように尽力して参ります。
本年も宜しくお願い致します。

令和3年1月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 1月号 No.664

- 編集・発行人 白鳥建樹
- 発行 全国酪農協同組合連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

全酪連は、酪農生産者のロマンと
消費生活者の安心をつなぐ
スペシャリストとなります。



全国酪農業協同組合連合会（全酪連）